

県内で初の選定保存技術保持者に認定

杷木在住のシュロ縄職人である井上輝雄さんが、このたび選定保存技術保持者として福岡県内で初めて認定されました。

井上さんは、福岡県指定無形民俗文化財に指定されている「蜷城の獅子舞」の保護団体「おくんち保存会」にシュロ蓑製作の技術を伝承するなど、後継者の指導・育成に尽力されています。

この「蜷城の獅子舞」に使用されている獅子のシュロ蓑製作技術が、獅子舞の用具製作技術の保存、伝承のために欠くことのできないものであるとして県から認定されました。

シュロ蓑は、1頭2人立ちの獅子が被るために用いるものです。製作には1頭分で30日かかり、2束のシュロをそれぞれ縄を作るよ

うに「ギュツ、ギュツ」と力を込めながら捻ることを繰り返して、格子網状に網んでいきます。

井上さんは、細い手を巧みに使い、慣れた手つきでシュロを網んでいき、きれいな格子状の目を作っていきます。その流れるような作業を見ていると、一見簡単にできるようですが、後継者の保存会員たちが「難しい。先生のようにはまだまだできない」と話すように、蜷城の獅子蓑は井上さんの

未来へ受け継がれる伝統文化 支えるのは、熟練の技と心意気



井上輝雄さん（杷木） 88歳

現在では、少なくなったシュロ縄職人。

13歳ごろから祖父の手ほどきを受け、シュロやカヤなどの植物繊維を編む技術を習得。太宰府天満宮の「お田植え祭」で使用される蓑の製作、国の登録有形民俗文化財「陸前高田の漁労用具」の修理に携わるなど文化・文化財の保護に貢献されています。



▲蜷城の獅子

高度な技術により支えられていることがうかがえます。

また、井上さんのものには現在もたくさんの工芸品の製作依頼が届いています。「蓑や工芸品作りは指先がしびれたようになって大変」と話す井上さんですが、その表情は生き生きとしています。

井上さんは「シュロ蓑作りの技術が、『蜷城の獅子舞』を支える技術として評価いただき大変うれしく思います。シュロ蓑作りは体力が必要な作業ですが、これからもう一層気を引き締めて頑張りたいと思います」と話しました。



▲シュロを網む井上さん